

## II 評価に関するアンケート調査

### 1 調査のねらい

学習指導要領の改訂に伴い、教育評価の中の情意面（関心・意欲・態度）の評価の在り方が重要視されてきている。そこで、情意面の評価についての問題点や課題をさぐり、今後の情意面の評価の在り方について小・中・高等学校の教師の意識を把握するとともに、本研究主題の研究仮説設定の基礎資料にすることを本調査のねらいとした。

### 2 調査の方法

#### (1) 調査の対象

調査の対象は、県下の小・中・高等学校の教諭とした。

#### (2) 調査対象学校

調査対象学校の選定にあたっては、県下の小・中学校は地域、学校規模等を参考に、高等学校は規模、課程等を参考に、37校を抽出した。

〔学校内訳〕

校種	小学校	中学校	高校	合計
調査学校数	17	14	6	37

回答者の選定については、各学校に次の条件のもとに一任した。

- 多教科にわたるようにする。
- 年齢が広範囲にわたるようにする。

#### (3) 回答者数

	小学校	中学校	高等学校	合計
20歳代	33人	28人	7人	68人(23.4%)
30歳代	62人	59人	15人	136人(46.9%)
40歳代	21人	17人	10人	48人(16.6%)
50歳代	12人	16人	10人	38人(13.1%)
合計	128人	120人	42人	290人(100.0%)

#### (4) 調査実施期間

平成4年9月～10月

#### (5) 調査領域と調査項目

調査領域は、教育評価全般と特に情意面（関心・意欲・態度）の評価に焦点を当て、下表の調査項目を設定した。

アンケート調査領域と調査項目の構成表

調査領域	調査項目	設問番号	設問内容
教育評価全般	(1) 必要意識	1	教育評価をする目的についての意識
		2 A	指導の中に評価を計画的に取り入れることの必要意識とその理由〔単元〕
	(2) 実践状況	B	指導の中に評価を計画的に取り入れることの必要意識とその理由〔1単位時間〕
		3	評価観点や方法を指導の中に計画的に位置付けた経験の有無〔単元（題材）〕
情意面の評価	(1) 全般	4	評価観点や方法を指導の中に計画的に位置付けた経験の有無〔1単位時間〕
		5	情意面の評価をする重要性についての意識
	(2) 実践状況	6	情意面の評価を実施する目的についての意識
		7 A	指導目標の中における情意面の指導目標設定の割合〔単元（題材）〕
	(3) 評価規準の設定	B	指導目標の中における情意面の指導目標設定の割合〔1単位時間〕
		8	情意面の評価の計画的な位置付け
		9	情意面の評価の実施頻度
		10	情意面の評価規準（観点）の明確化
		11 A	情意面の評価規準を決定する際の手続き
		B	情意面の評価規準設定の際の困難点（個人）
	(4) 評価の客観性	12	情意面の評価規準設定の際の問題点（委員会、教科会等）
		13	情意面の評価観点の具体化の程度
	(5) 評価方法と設定場面	14 A	情意面の評価の客観性についての意識
		B	情意面の評価の客観性についての意見（自由記述）
		15	各評価方法の使用場面（教師からの評価、児童生徒の自己評価、相互評価）
	(6) 評価結果の数量化	16	各評価方法の長所短所（同 上）
17		今後重視したい情意面の評価方法（同 上）	
18		情意面の評価結果を数量化することの必要性とその理由	
(7) 評価の手だて	19	情意面の評価結果の評定への組み入れとその理由	
	20	情意面の評価結果の評定への組み入れる割合	
	21	情意面の評価をする際に使用する評価の手だて	
(8) 実践上の問題と課題	22	今後重点的に取り入れてみたい情意面の評価の手だて	
	23	情意面の評価について困難や問題を感じる点（自由記述）	